

当院の大黃の使い方は、次の通りです。

- ①煎じ薬として使う場合……〇・五〜六^g（他薬と一緒に同煎）
- ②粉末として内服する場合……〇・三〜三^g（一回〇・一〜一^g）

*ただし、投与量は便の性状から判断。排便一日一〜二回、やや軟便でスムーズに排出できる状況を維持。

*長期服用による腸管機能障害、持続性便秘の出現に、注意する。

「左半身が痺れて感覚が戻りません。それに胸の痞えと、脈拍が一分間に六十回程度なのに動悸がして苦しいのです。顔もほてります。じつは半年前、脳外科に運ばれ救急入院しました。頭部のMRI・MRA検査で、中大脳動脈の血栓性閉塞と診断されましたが、幸い抗血栓治療の効果があって、後遺症がこの程度で済んだと言われました。後はリハビリで回復をはかるように言われています。胸部の検査では異常がありません。現在は、血小板凝集抑制剤と微小循環改善剤を内服していますが、漢方治療と併用すると症状の回復が早いかもしれないと言われて来ました」

がっしりした体格で男まさりのR美さんは、販売店の店長を務める四十代後半のキャリアウーマンです。突然、脳梗塞に襲われましたが、幸い出血もなく、完全麻痺は避けられました。しかし左半身の痺れと疼痛、感覚低下、握力や下肢の筋力低下など不全麻痺が残ってしまいました。軽い口眼歪斜をみとめ、話をするとき、口の開閉がまだスムーズではありません。血圧はときどき一四〇^{mmHg}（ミリメートル）台の軽い高血圧状態になるところがありました。ふだんは一三〇^{mmHg}（ミリメートル）台で、降圧剤の服用を始めてはいませんでした。ふだんから声が大きく、食事肉類や辛いものが大好きで、かなりのグルメでした。食べることで大きな声が、R美さんの特徴でしたが、責任ある立場で仕事が忙しく、かなり無理をしていたようです。今は食欲もあります。

彼女が現在抱えている問題を、整理してみました。

①片側の不全麻痺。②首から上のほてり・熱感。③動悸・胸悶および嚥下困難があり、食欲もなくなっている。主にこの三点に集約されるようです。舌質紅微暗・舌苔黃厚膩、脈滑弦、便秘があります。

脑梗塞後遺症の病機を肝風夾痰上擾・痰瘀腦絡と考え、血府逐瘀湯と温胆湯の方意を利用した血府温胆湯の加減処方を用いて、瘀血と痰に対する治療をすることにしました。

「半夏五^{ムグラ}、茯苓五^{ムグラ}、陳皮四^{ムグラ}、竹筴四^{ムグラ}、枳実二^{ムグラ}、炙甘草二^{ムグラ}、生姜一^{ムグラ}、桃仁四^{ムグラ}、紅花三^{ムグラ}、香附子四^{ムグラ}、赤芍四^{ムグラ}」一週間分です。

「動悸が少し楽です。でも胸の痞えは取れません。顔のほてりも相変わらずです」

漢方薬を服用して、食事が摂れるようになったようですが、気をつけて口に入れないと、口の脇から食べ物がかぼれてしまいます。さらに前回の処方に、胸の痞えに対し厚朴・枳実の二味を、動悸の感覚に対し竜骨・牡蛎の二味を加えたところ、ほてりと動悸の訴えは軽減しました。しかし、しばらく続けるとその訴えがぶり返してきます。便秘も続きます。効果に切れがありません。そこで排便による逐瘀理気の方法を考えました。瀉下効果があり気滞血瘀の病態に広く用いられる通導散（『万病回春』）を主に四君子湯と桂枝茯苓丸を加減しその効果を強めました。活血祛瘀・益気通絡の方意です。

「大黃三^{ムグラ}、芒硝三^{ムグラ}、枳実三^{ムグラ}、厚朴二^{ムグラ}、当歸三^{ムグラ}、陳皮二^{ムグラ}、紅花二^{ムグラ}、蘇木二^{ムグラ}、人參三^{ムグラ}、黃耆三^{ムグラ}、白朮三^{ムグラ}、桂枝三^{ムグラ}、桃仁三^{ムグラ}、牡丹皮三^{ムグラ}、炙甘草二^{ムグラ}、麦芽六^{ムグラ}」七日分の処方です。

服用し始めてから、便通がとても良くなり、食欲もグツと増えました。それとともに、顔のほてりと胸の痞えが次第に軽減し、ぶり返しもなくなりました。左半身の痺れや麻痺の改善も始まり、やがて食べ物からこぼれることがなくなりました。

同じ処方が続き、いつの間にか五カ月が経過した頃です。

「三日前から、顔が熱くて、ドキドキが止まりません。便通も良いし食欲はありますが」

しばらく前から仕事に無事復帰し、働き始めたところでしたが、月末の売り上げ集計額が合わなくて数日カツカした日が続いた結果、顔のほてりと動悸が再燃したそうです。ずっと同じ通導散加減を服用していますが、効果がありません。まだ顔面頭部に過剰な火熱が燻^{くすぶ}って残っていて、それを鎮圧しないと再び悪夢に襲われる可能性があります。さらに清熱瀉火作用の強い処方にシフトすることにしました。

梔子金花湯（山梔子・黄芩・黄连・黄柏・大黃。清泄火熱）を主に、芒硝（瀉熱通便）、竜骨・牡蛎（安神）、桃仁・紅花（活血祛瘀）、白朮・茯苓・陳皮（理気健脾）、麦芽（疏肝）、炙甘草（調和）を加えた処方です。服用し始めてから次第に、顔のほてりや項の熱感が軽くなり、二カ月半の服用を続けることで、どうにか完全に残り火を消すことができました。動悸もほとんど消失しました。

来院してからすでに一年が経過し、やっと残っている半側の不全麻痺の治療に的を絞ることができるようになりました。すでに包丁を持って料理ができるようになりましたが、まだ感覚が完全には戻りません。うっかり指を切っても気がつかないことがあります。中風後遺症で気虚血瘀に用いる補陽還五湯（『医林改錯』）を使う時期に達したと考えました。補陽還五湯は、後遺症が続き正気が虚し、血脈がめぐらぬ麻痺が残った状態に有効です。さらに便秘に麻子仁・大黃・枳実と、疏肝柔肝作用をもつ麦芽・酸棗仁と一緒に配合しました。

「黄耆九^{ムグラ}、当歸六^{ムグラ}、芍薬六^{ムグラ}、川芎四^{ムグラ}、桃仁三^{ムグラ}、紅花三^{ムグラ}、麻子仁六^{ムグラ}、大黃三^{ムグラ}、枳実三^{ムグラ}、麦芽六^{ムグラ}、酸棗仁六^{ムグラ}」二週間分の処方です。

仕事も無理をせずにこなし、食事の内容にも注意し、多少の症状の波があつて、途中から、さらに桂枝^{クワ}、生姜^{シヨウ}・五^ム、大棗^{ダイソウ}を追加しましたが、順調に回復し、最後の処方を用い続けて約十カ月後に、かなり不全麻痺の症状が消失しました。五十歳を目前にして、ほとんど以前の状態近くまで戻りました。ここまで約二年の歳月が必要でした。漢方治療がどれだけR美さんの回復の手助けになったのかはわかりませんが、素直に喜びが湧いてきました。それ以後、彼女がやってくるときの言葉は、「今日はカゼを引いたみたい」という言葉だけです。またいつもの「葛根湯医」に戻りました。



夕方、最後の漢方処方を捻りだし、診察を終えた。今夜は、映画「劔岳」を観に行く。しばらく前から、家人に単独登山を禁止されている。本当は、山の空気を吸いに、北アルプスに内緒で出かけたいのだが、無事に帰宅できる自信はない。音楽や映画で我慢しよう。

急いで、玄関を閉じようとしたら、一陣の風が吹き抜けた。日々是好日。

12

不安、パニック（奔豚気）

六十歳、女性

「気が触れて、どうにかなってしまいそう」

還暦を向かえたばかりのA子さんが、困惑した顔で話し始めました。

「聞いていただきたいことがたくさんあつて、先生には迷惑かもしれませんが、少しの辛抱と違って最後まで聞いて欲しいの、今日は私自身の身体のことばかりです」

娘さんの冷え性や生理不順、ときには進学、就職の話まで子供の問題で来院することの多かったA子さんが、自分の身体の不調を訴えることは、それほど多くはありませんでした。

「月日の経つのは早いものね、子供もあつという間に大きくなって、娘も半年前に嫁いでいきました。そうしたら自分の仕事をやり終えてしまった虚脱感というのかしら、身体に力がまるで入らなくなってしまう。やがて耳鳴りが始まり、めまいも起きてきて耳鼻科の先生の所に通院して、半夏白朮天麻湯と四物湯のエキスを処方していただき、三カ月ほど服用しています。いくらかめまいは軽くなっている気はするのですが、いやな耳鳴りが両側の耳と、まるで『頭鳴り』というのかしら、後頭部と合計三カ所聞こえます。油蟬が鳴いているような高い音で、気になってイライラします。そればかりではありません。実は今日伺ったのは、最近、突然下から何かが衝き上がるような感じがして、急に心臓が速く打ち始め、不安で不安でパニック状態になってしまいます。しばらくすると自然に治まってしまいますが、また急に下から駆け上ってきます」